

24) 放射線科臨床研修プログラム

研修医氏名 _____
 指導医氏名 _____

I. 一般目標

放射線医学に関する一般的な知識、技術の習得のみならず、臨床において各画像の読影及び画像診断レポートの作成、放射線治療患者の診察と治療計画立案能力を身につけることを目指す。

II. 経験目標

A. 経験すべき診察法・検査・手技

II-A- (1) 医療面接

★明朝体：経験が必要とされる項目

患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、

		研修医評価	指導医評価
★	1) 患者・家族への適切な指示、指導ができる。	A B C D	A B C D

II-A- (3) 基本的な臨床検査

		研修医評価	指導医評価
★	1) 超音波検査	A B C D	A B C D
★	2) 単純X線検査	A B C D	A B C D
★	3) 造影X線検査	A B C D	A B C D
★	4) X線CT検査	A B C D	A B C D
★	5) MRI検査	A B C D	A B C D
★	6) 核医学検査	A B C D	A B C D

II-A- (6) 医療記録

チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために、

		研修医評価	指導医評価
★	1) 診療録（退院時サマリーを含む）をPOS(Problem Oriented System)に従って記載し管理できる。	A B C D	A B C D
★	2) 紹介状と、紹介状の返信を作成でき、それを管理できる。	A B C D	A B C D

II-A- (7) 診療計画

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価するために、

		研修医評価	指導医評価
★	1) 診療計画（診断、治療、患者・家族への説明を含む）を作成できる。	A B C D	A B C D
★	2) 診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる。	A B C D	A B C D

II-D- (1) その他

(1) X線診断

		研修医評価	指導医評価
☆	1) 主要な病変を指摘し、鑑別診断を述べる事が出来る。	A B C D	A B C D
☆	2) 検査に伴う障害、副作用を理解し、それを配慮して検査計画を立案できる。	A B C D	A B C D
☆	3) 患者に検査目的、検査方法、副作用等について適切に説明できる。	A B C D	A B C D
☆	4) 診断レポートを作成する。	A B C D	A B C D

(2) CT診断

		研修医評価	指導医評価
☆	1) CTの原理を理解する	A B C D	A B C D
☆	2) 正常CT解剖を理解する	A B C D	A B C D
☆	3) 造影の有無、造影方法による画像の違いを理解する	A B C D	A B C D
☆	4) 主要な病変を指摘し、鑑別診断を述べる事が出来る	A B C D	A B C D
☆	5) 検査に伴う障害、副作用を理解し、それを配慮して検査計画を立案できる	A B C D	A B C D
☆	6) 患者に検査目的、検査方法、副作用等について適切に説明できる	A B C D	A B C D
☆	7) 診断レポートを作成する。	A B C D	A B C D

(3) MRI診断

		研修医評価	指導医評価
☆	1) MRIの基礎的事項を理解する	A B C D	A B C D
☆	2) 正常MRI解剖を理解する	A B C D	A B C D
☆	3) MRI造影剤について理解する	A B C D	A B C D
☆	4) 主要な病変を指摘し、鑑別診断を述べる事が出来る	A B C D	A B C D
☆	5) 検査に伴う障害、副作用を理解し、それを配慮して検査計画を立案できる	A B C D	A B C D
☆	6) 患者に検査目的、検査方法、副作用等について適切に説明できる	A B C D	A B C D
☆	7) 診断レポートを作成する	A B C D	A B C D

(4) 超音波検査		研修医評価	指導医評価
☆ 1)	超音波検査の特性について理解する	A B C D	A B C D
☆ 2)	超音波検査の適応を判断できる	A B C D	A B C D
☆ 3)	超音波検査の正常解剖を理解する	A B C D	A B C D
☆ 4)	超音波検査での異常を指摘することができ、鑑別診断を述べるができる	A B C D	A B C D
☆ 5)	超音波ガイドでの穿刺方法を理解する	A B C D	A B C D
☆ 6)	患者に検査目的、検査方法、副作用等について適切に説明できる	A B C D	A B C D
☆ 7)	診断レポートを作成する	A B C D	A B C D

(5) 核医学検査		研修医評価	指導医評価
☆ 1)	核医学検査に使用する放射性医薬品について理解する	A B C D	A B C D
☆ 2)	核医学検査の適応を判断できる	A B C D	A B C D
☆ 3)	放射線医薬品を適切に扱うことができる	A B C D	A B C D
☆ 4)	シンテグラム、PET-CTで異常を指摘し、鑑別診断を述べるができる。 動態検査、負荷検査を実施できる	A B C D	A B C D
☆ 5)	核医学検査に伴う障害、副作用を理解し、それを配慮して検査計画を立案できる	A B C D	A B C D
☆ 6)	患者に検査目的、検査方法、副作用等について適切に説明できる	A B C D	A B C D
☆ 7)	診断レポートを作成する	A B C D	A B C D

(6) I V R		研修医評価	指導医評価
☆ 1)	血管撮影の基礎的手技を習得する	A B C D	A B C D
☆ 2)	正常血管解剖を理解する	A B C D	A B C D
☆ 3)	検査結果で異常を指摘し、鑑別診断を述べるができる	A B C D	A B C D
☆ 4)	動注に使用する薬剤、塞栓物質、ステントを理解し、適応を述べるができる	A B C D	A B C D
☆ 5)	検査に伴う障害、副作用を理解し、それを配慮して検査計画を立案できる	A B C D	A B C D
☆ 6)	患者に検査目的、検査方法、副作用等について適切に説明できる	A B C D	A B C D
☆ 7)	診断レポートを作成する	A B C D	A B C D
☆ 8)	CT下生検の基礎的手技を習得する	A B C D	A B C D

(7) 放射線治療		研修医評価	指導医評価
☆ 1)	放射線治療の基礎的な知識を得る	A B C D	A B C D
☆ 2)	外照射の方法を理解する	A B C D	A B C D
☆ 3)	種々の悪性腫瘍患者の診察を行う	A B C D	A B C D
☆ 4)	放射線治療の適応、副作用および副作用に対する対処法を理解する	A B C D	A B C D
☆ 5)	放射線治療について、効果、副作用等につき正しく患者に説明できる	A B C D	A B C D
☆ 6)	簡単な照射野設定を行う	A B C D	A B C D

ゴシック体：Ⅱ-D-(1) その他は当該科で経験が必要とされる項目

1) . 研修指導体制

1. 担当指導医
 - a. 研修医1名に対して1名の担当指導医を置く。
 - b. 担当指導医は、全期間を通して研修の責任を負う。
 - c. 必ず1日1度研修医と連絡をとり、研修予定・研修内容をチェックする。
 - d. 必要に応じて個別に指導し、また、研修スケジュールの調整を行う。
 - e. 不在の際の責任体制・報告体制を研修医に示す。
2. 「その他指導医」と上級医が担当指導医を補佐し、処置等直接指導を行う。
3. 放射線技師など「指導者」も、積極的に研修医の指導に当たる。

2) . 研修方略

1. 講義とOJTを中心に行っていく。
2. オリエンテーション（第1日、担当指導医）。
 - a. 研修の目的、実務、勉強会、注意事項に関して。
 - b. プログラムに沿った下の特殊性と習得すべきポイント。
 - c. 医療事故発生時の対応に関して。
 - d. スタッフへの紹介、放射線部の案内。
3. 読影研修
 - a. 指示された症例につき、読影レポートを作成する。
 - b. 指導医の指導、添削を受ける。
4. 外来研修
 - a. 外来診察に同席する。適宜診察する。
 - b. 新患の放射線治療計画を検討する。

5. その他検査研修
 - a. 適宜、指導法を設定する。
6. カンファランス、勉強会
 - a. 放射線治療カンファランスに参加する。(月1回)
 - b. マンモグラフィカンファランスに参加する。(月2回)
 - c. 乳がん病理カンファランスに参加する。(隔月)
 - d. 呼吸器病理カンファランスに参加する。(月1回)
 - e. 医局会でのCPCに参加する。(隔月)
 - f. 可能なら、救急の勉強会に参加する。
7. 終了面接(担当指導医)
 - a. 最終週の金曜日に行う。
 - b. 経験症例の確認と到達度。
 - c. 感想と要望。
 - d. 終了後、速やかに「自己評価表」、「科評価及び指導医評価表」を記載し、臨床研修センターに提出する。

3) 週間スケジュール

内容：特記以外は、読影練習・指導。

放射線治療計画は、その時の状況で変わりうる。

読：放射線科読影室、診：入院棟地下放射線科診察室

(読影場所は、代務医状況で変更することがある)

原則として、午前8：30に放射線科読影室、または、入院棟地下放射線科診察室に来てください。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
早朝					
午前	読：	読：	読：	診：放射線治療患者診察	読：
午後	読：	読：	読：	診：放射線治療患者診察 放射線治療計画	読：
夕方					

診：とある場合でも、代務の先生の読影が早く終わる等で、読影室に移れることもある。

注)

1. この表は、2年次用。1年次は、必須科のみで、放射線科をローテートしない。
2. 当直翌日は、直明けとして、研修 duty なし。残務終了後、帰宅可としている。
3. 期間中、講演会、放射線治療カンファランス等検討会があれば、原則参加とする。
4. 読影、放射線治療の日数は、希望により変えてもよい。
5. この表は、1週間用。2週間では、2サイクル、4週間では、4サイクルとする。

4) 研修評価項目

1. 研修終了後に、自己評価と指導医評価を規程に従い、入力する。形成的に評価を行う。
2. 科の「到達目標チェックリスト」の項目に関し、経験した症例を記載する。
終了時に担当指導医に提出する。(担当指導医は、評価の参考とし、研修センターに提出する)
3. 共通Aの評価表を規定に従い入力する。

研修全般に対する総合評価	研修医評価	指導医評価
1) 仕事の処理	A B C D	A B C D
2) 報告・連絡	A B C D	A B C D
3) 患者への接し方	A B C D	A B C D
4) 規律	A B C D	A B C D
5) 協調性	A B C D	A B C D
6) 責任感	A B C D	A B C D
7) 誠実性	A B C D	A B C D
8) 明朗性	A B C D	A B C D
9) 積極性	A B C D	A B C D
10) 理解・判断	A B C D	A B C D
11) 知識・技能	A B C D	A B C D